

生活者の視点による地域活力・活性化に関する アンケート調査結果概要について

平成 18 年 3 月 31 日

内閣府経済社会総合研究所

1. 調査要領

(調査の趣旨)

本アンケート調査は、元気な地域の活動を紹介している「わがまち元気」サイト (<http://www.wagamachigenki.jp/>) の運営事業の一環として実施された。生活者・消費者の視点から地域の活力・活性化を生み出す要因や背景を検討し、新しい時代の地域施策に役立てることを目的としている。

(調査対象、時期及び回答数)

昨年度本サイトで実施された全国の自治体を対象とした調査で、北海道ニセコ町が「参考(あるいは目標)とする自治体」として最も多くの回答を得た。そこで、本年度は、ニセコ町の全世帯、中学生を除く 15 歳以上の全住民を対象に、調査を行った。平成 17 年 11 月に調査票を配布し、12 月中旬までに回収した。回収結果は以下の通り。

配布世帯数は 1,991 世帯、回収世帯数は 631 世帯で、世帯でみた回収率は 31.7%。

調査票配布数は 4,026 枚、回収数は 1,178 枚で、調査票の回収率は 29.3%。

(ニセコ町の平成 17 年 3 月末の住民基本台帳人口・世帯数は、4,645 人、1,991 世帯)

(調査内容と方法)

行政サービスへの満足度、行政の実施する事業の評価、まちづくり基本条例の認知度等について住民の視点からの意見を聞く形で行っている。

(調査体制等)

本調査は、下記の研究委員会において調査方法、調査内容の検討を行い、(社)日本リサーチ総合研究所が調査を実施した。

「生活者の視点による地域活力・活性化に関する研究委員会」

(委員) 鈴木 輝隆 江戸川大学 社会学部 教授

打越 綾子 成城大学 法学部 助教授

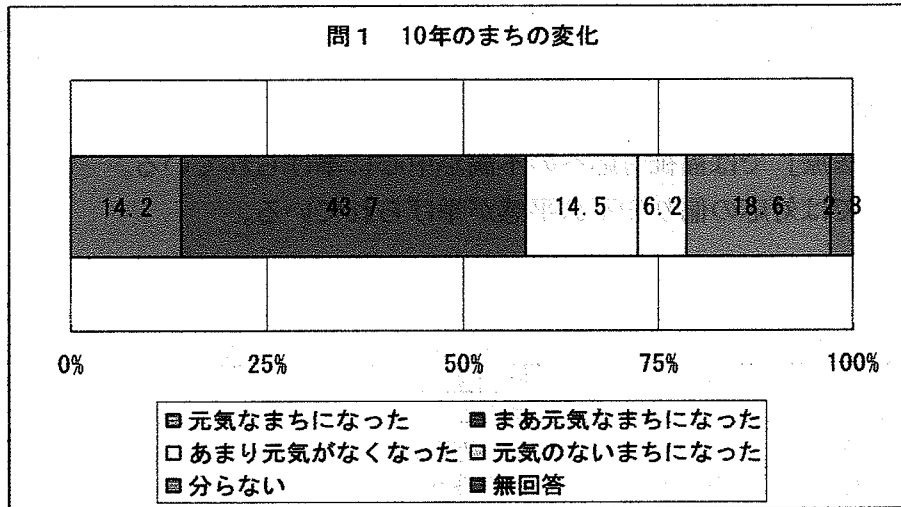
長野 基 早稲田大学 政経学部 助手

2. 調査結果の概要

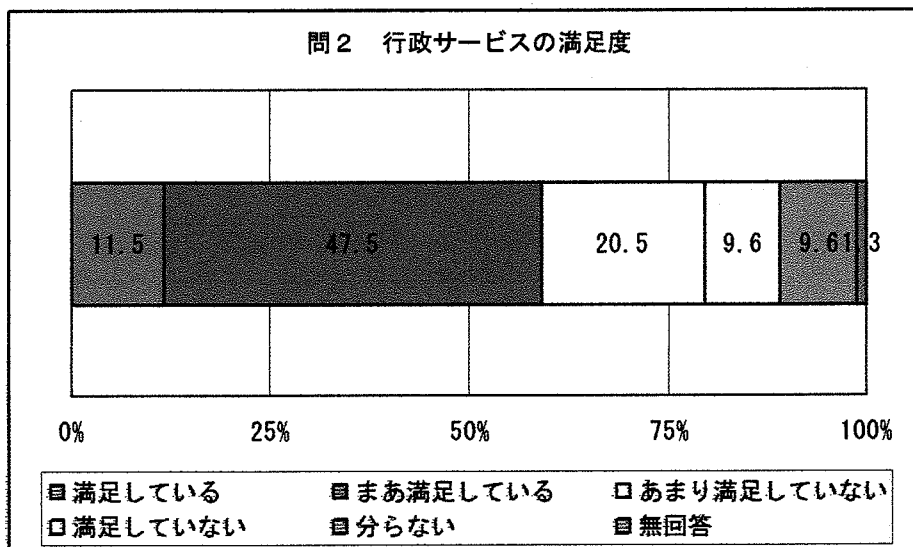
- ・全体に行政施策やサービスへの評価、満足度が高く、この10年位で町が元気になったと評価されている。
- ・まちづくりに対する住民の関心が高く、町への愛着も強い。
- ・「まちづくり基本条例」の認知は高いが、制定の効果は「分からない」とする人が1/4を占めるなど必ずしも認められていない。また、行政が直接住民の意見を聞く施策への参加も多くない。
- ・まちづくりは財政状態に応じて行うのがよいとする人が過半数を占めている。
- ・まちづくり活動への参加意欲は内閣府世論調査（「地域再生に関する特別世論調査」（平成17年））と変わらず、ニセコ町の住民の意識が特別に高いわけではないが、参加に否定的な意見はニセコ町の方が少ない。また、社会活動への参加率は4割と高く、「美化・緑化活動」など実際に行動している人が多い。

3. 調査結果

- ・【問1 町の元気度の変化】ここ10年くらいの間でニセコ町は「元気なまちになった」14.2%、「まあ元気なまちになった」43.7%で、全体の58%が町が元気になったと回答。



- ・【問2-1 行政サービスの満足度】行政サービスは「満足している」11.5%、「まあ満足している」47.5%で59%が行政サービスに満足している。



・【問2-2 行政サービスへの具体的な不満】「あまり満足していない」「満足していない」と回答した355人の具体的な不満事項は「交通」が23.7%（複数回答）で最も多く、「教育・文化」が16.1%、「福祉・医療」が13.0%、「行政」が12.7%となる。

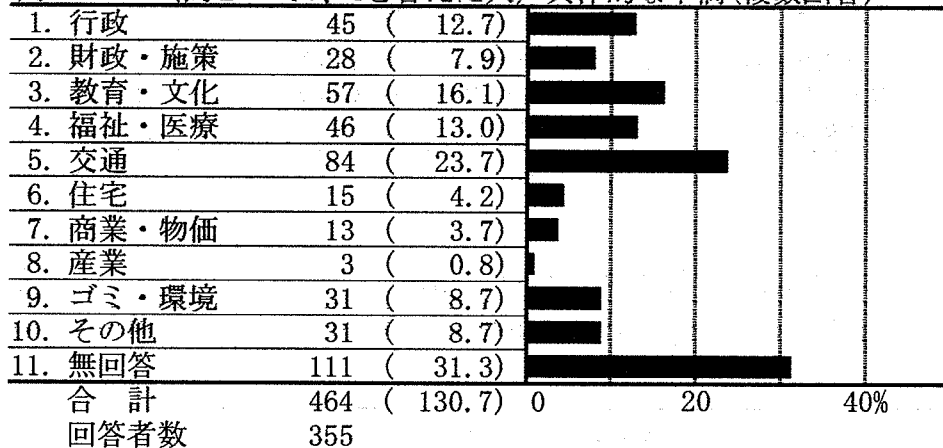
「交通」ではバスや汽車などの便数やネットワーク、ダイヤなどアクセスへの不満が多く、また町内を走るシャトルバスの乗車率が低いことへの不満が強くなっている。

「教育・文化」では、教育全般について、学力低下・教育水準への不安、教育予算や保育体制などに不満がみられる。

「福祉・医療」では福祉対応への不満が中心に挙げられている。

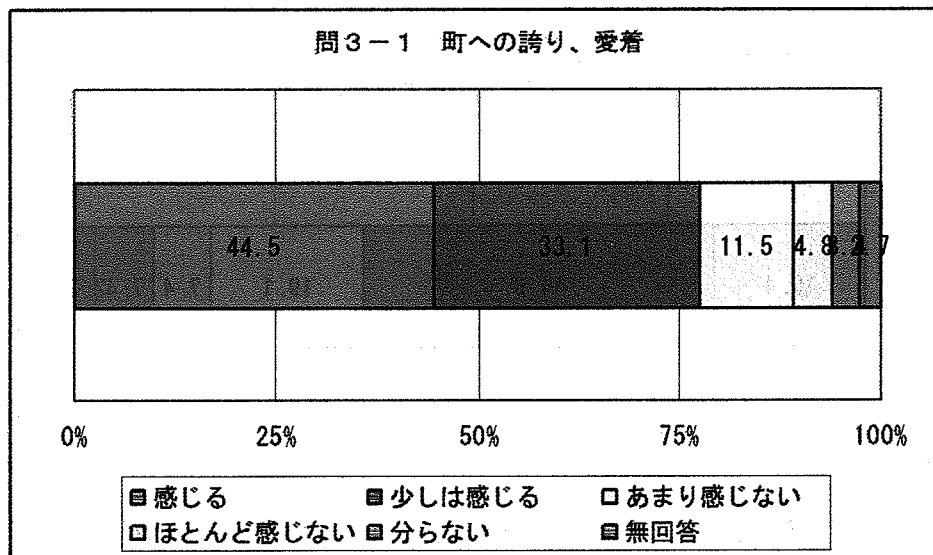
「行政」では対応の偏りや不公平感が挙げられている。

問2-2 (問2-1で3、4を答えた人) 具体的な不満(複数回答)



かつこ内は、回答者数に対する割合で%

- ・【問3-1 誇り、愛着について】町への誇り、愛着は「感じる」がもっとも多く44.5%、「少しは感じる」33.1%で78%にのぼる。

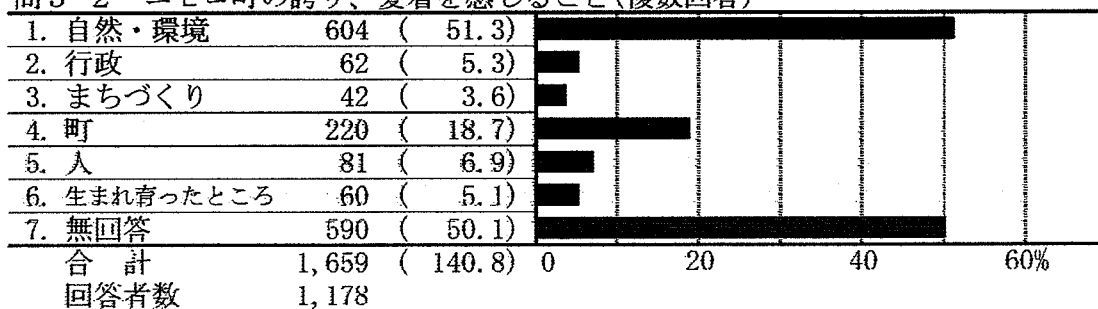


- ・【問3-2 具体的な誇り、愛着】具体的に半数の人が誇り、愛着を感じるものを記入しているが、そのほとんどが「自然、環境」を挙げている。「自然、環境がよい」や「景色・景観がよい」と答えているほか、具体的には羊蹄山など山の名前を挙げる人が多くみられた。

次いで「町」を挙げる人が多くなっている。その理由としてはニセコという名前や有名になったことが挙げられ、次いでスキー場や温泉など施設があることで町がよいという意見が多くなっている。

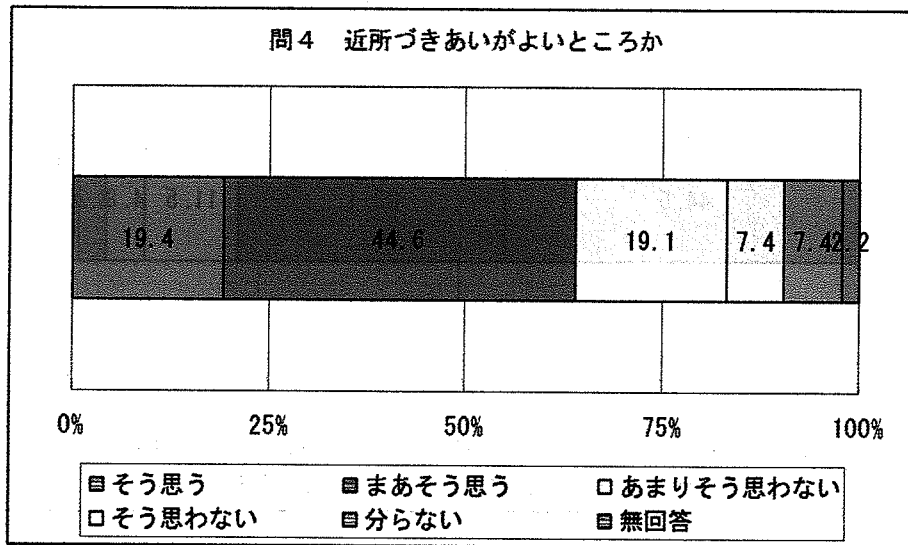
これら以外では「人」「行政」「まちづくり」にも誇り、愛着が感じられており「生まれ育ったところ」を理由とする人も少なくない。

問3-2 ニセコ町の誇り、愛着を感じること(複数回答)

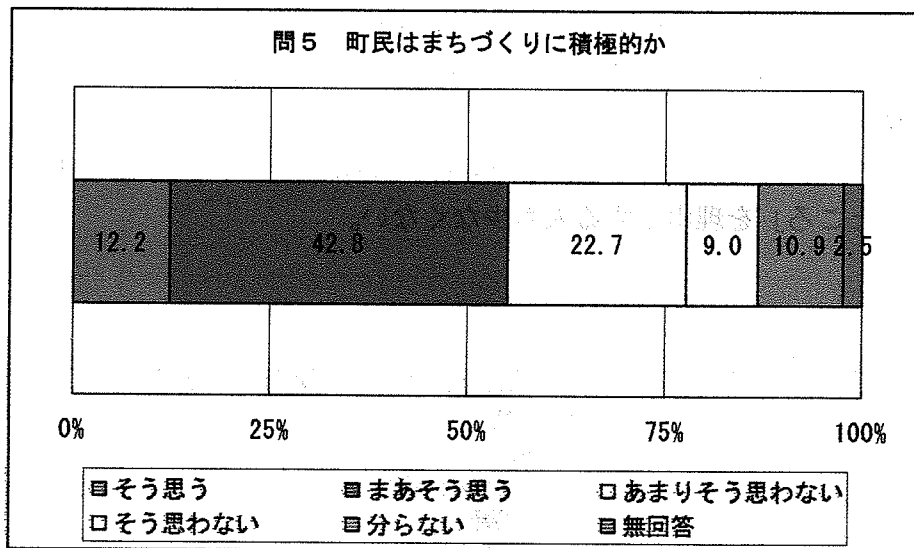


かっこ内は回答者数に対する割合で%

・【問4 近所づきあいのよさ】近所づきあいのよさは「そう思う」19.4%、「まあそう思う」44.6%で64%。



・【問5 まちづくりへの町民の積極度】まちづくりへの町民の積極度は「そう思う」12.2%、「まあそう思う」42.8%で55%。



- ・【問6 まちづくりに積極的な団体・グループ名】ニセコ町のまちづくりに積極的に取り組んでいると評価される団体・グループがあればその名前を記入してほしいには26.7%が回答。広範囲に挙げられているが、主な団体は以下のもの。

1. 学習交流センター「あそぶっく」
2. NPO法人ニセコまちづくりフォーラム
(21世紀まちづくり委員会、花フェスタを含む)
3. ニセコビュープラザ(道の駅)
4. (株)ニセコリゾート観光協会
5. 商工会

<問7から問11まではニセコ町(行政)の取組みについて評価してもらった>

- ・【問7 事業や条例整備等施策の評価】施設や条例などこれまでの取組みを25項目挙げて評価を得た。これらの項目に「分らない」と回答した人の割合をみると、「ふるさとづくり寄付制度」が33.8%で最も多い。この制度は町外に住む人を対象としたものである。これ以外では「子供まちづくり委員会」(28.5%)、「子供議会」(27.9%)、「子供も参加する町民投票」(26.4%)「幼稚園や保育所の開放事業」(24.6%)といった子供を対象としたものや、「環境基本条例」(27.0%)、「景観条例」(24.7%)といった条例のほか、行政が行っているまちづくりに町民参加を促す施策である「まちづくりトーク」(25.7%)、「まちづくり町民講座」(23.0%)などがある。

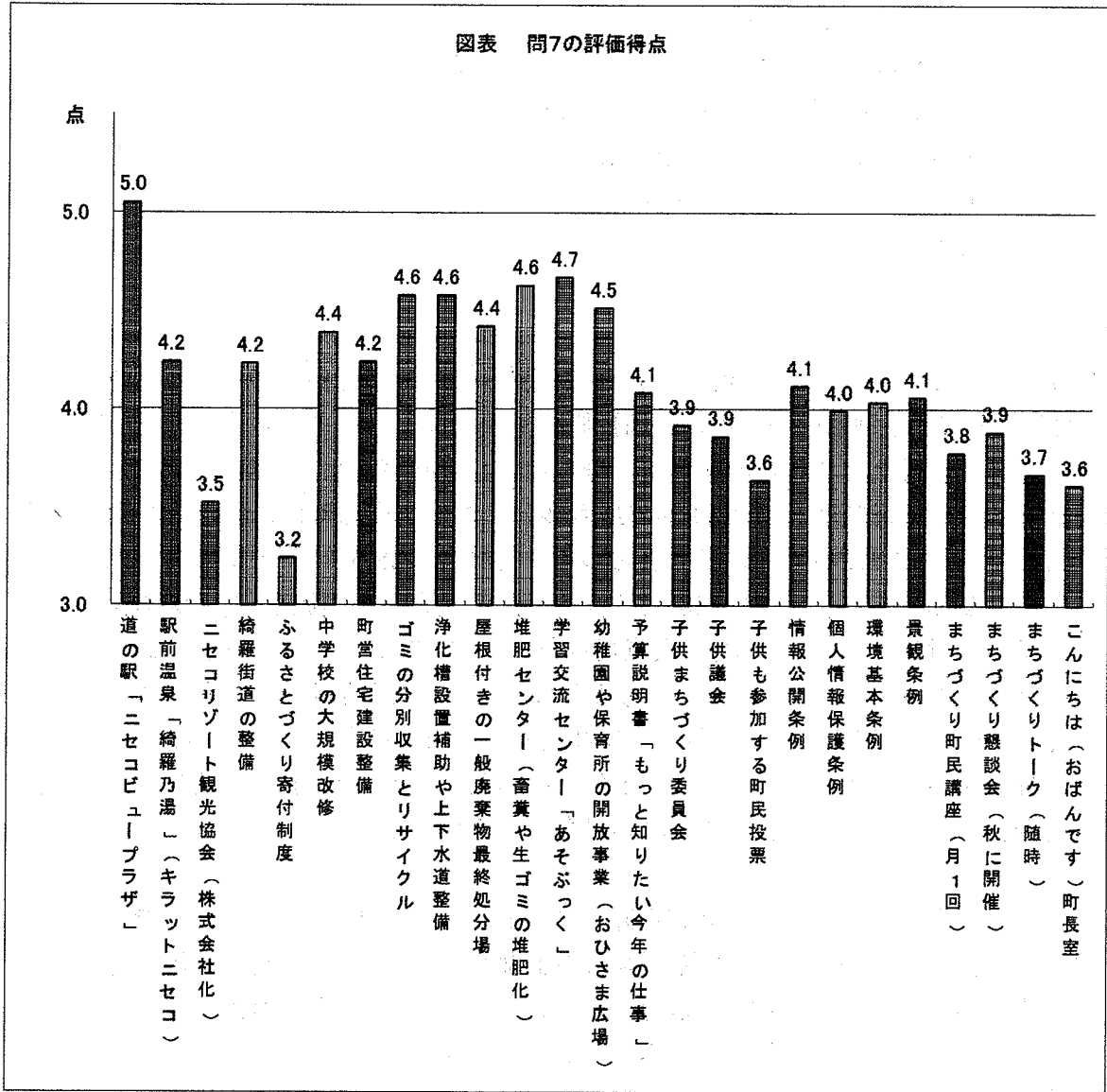
「分らない」という回答は、小さな子供が身近にいないなど施策に興味や関心が無い場合、もしくは情報が届いていない場合が考えられる。

これら「分らない」という回答を除いて、施策への評価をみる。「評価できる」=6点、「やや評価できる」=4点、「あまり評価できない」=2点、「評価できない」=0点の得点を与えて平均点を計算した。評価の分かれ目となる3点をすべての項目が上回っており、どの施策も評価されているといえる。

中でも最も評価の高かったのが「道の駅ニセコビュープラザ」で平均点で5点となっている。以下、学習交流センター「あそぶっく」(4.7点)、「堆肥センター」、「ゴミの分別収集とリサイクル」と「浄化槽設置補助や上下水道整備」(ともに4.6点)、「幼稚園や保育所の開放事業」(4.5点)、「中学校の大規模改修」(4.4点)の評価が高い。

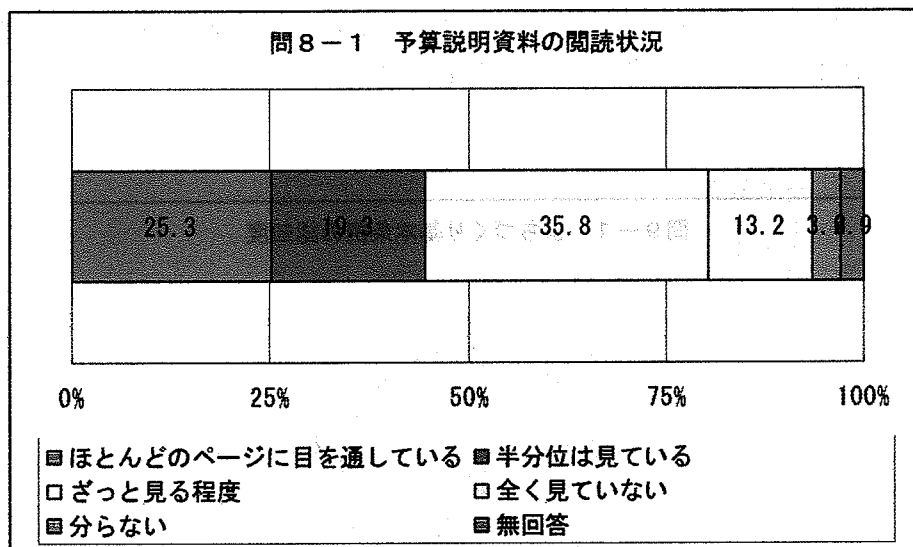
「ふるさとづくり寄付制度」は3.2点、「ニセコリゾート観光協会」が3.5点、「こんにちは(おぼんです)町長室」や「子供も参加する町民投票」が3.6点となっている。

図表 問7の評価得点

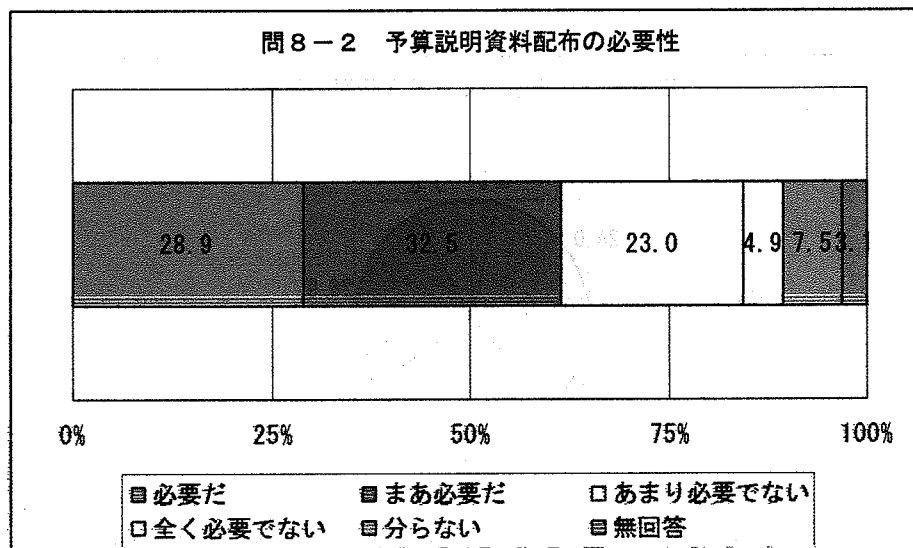


(グラフの各項目の表記された数字は、実際の評価得点を四捨五入している)

- ・【問 8-1 予算説明資料の利用】 予算説明資料「もっと知りたい今年の仕事」を「ざっと見る程度」は 35.8%、「ほとんどのページに目を通している」は 25.3%、「半分位は見ている」が 19.3%の順で「全く見ていない」は 13.2%。

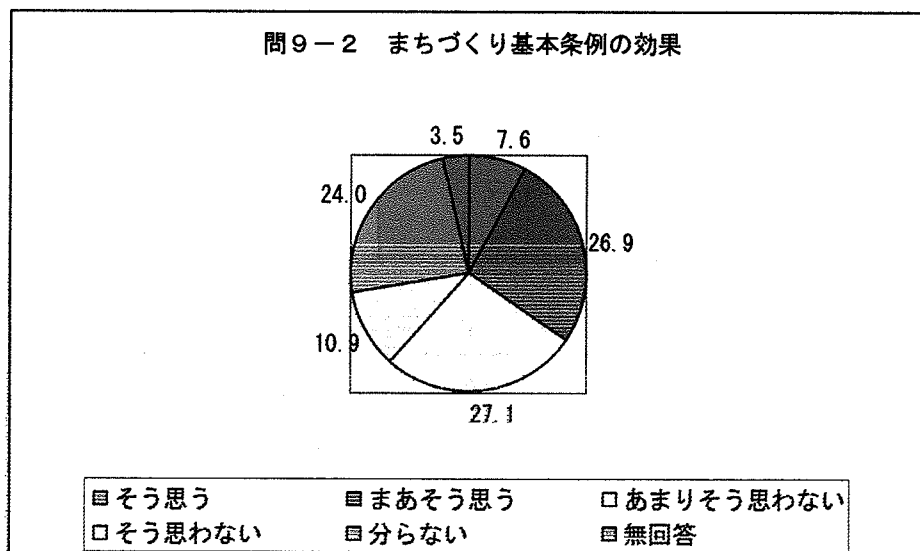
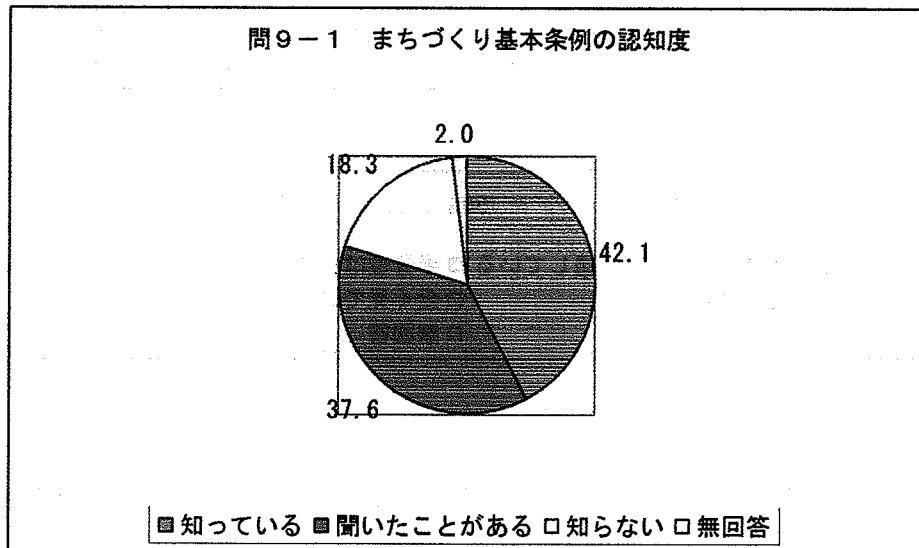


- ・【問 8-2 説明資料配布の必要性】 予算説明資料の配布は「必要だ」が 28.9%、「まあ必要だ」32.5%となり、6割の人が必要と答えている。

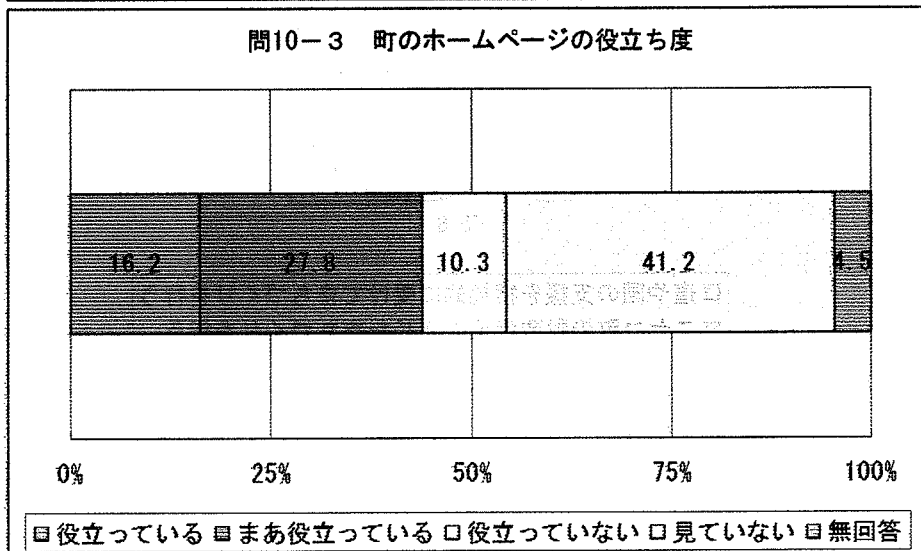
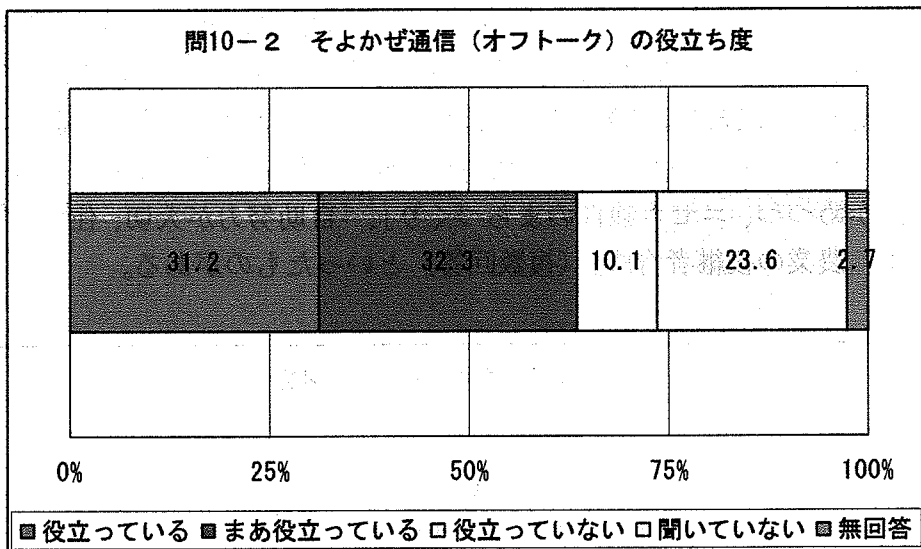
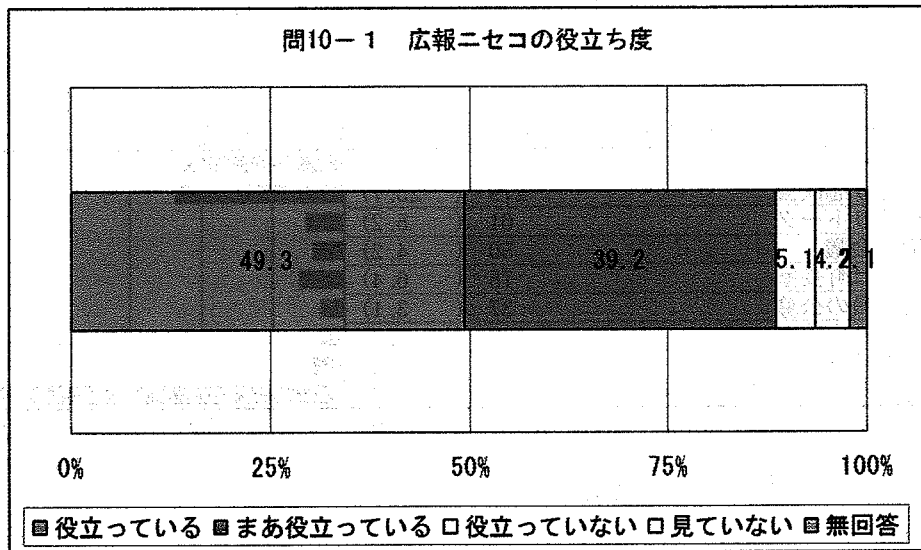


・【問9-1、2 まちづくり基本条例の認知と効果】「まちづくり基本条例」を「知っている」42.1%、「聞いたことがある」37.6%で認知率は79.7%。

条例制定で住民の考えが反映するようになったかについては「そう思う」7.6%、「まあそう思う」26.9%。反対に「あまりそう思わない」27.1%、「そう思わない」10.9%で、思わない人の割合がわずかだが多い。

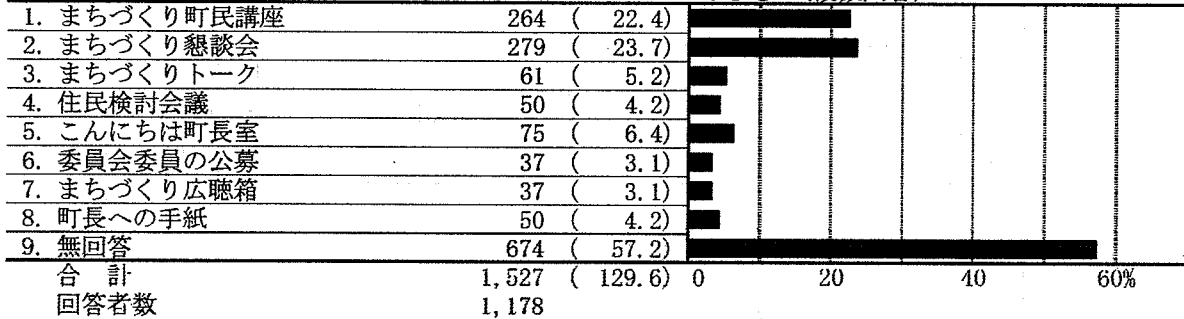


・【問 10 広報活動の役立ち度】ニセコ町の広報活動は役立っているとまあ役立っているの合計で「広報ニセコ」が88.5%、「そよかぜ通信（オフトーク）」が63.5%、「町のホームページ」は44%。ホームページは見えていない人が41%となっている。



- ・【問 11 住民意見収集施策の利用度】住民の意見を集める施策の参加・利用率は、「まちづくり懇談会」が 23.7%、「まちづくり町民講座」22.4%で、その他は 10%未満（複数回答）。無回答（参加利用なしと無回答）が 57.2%となっている。

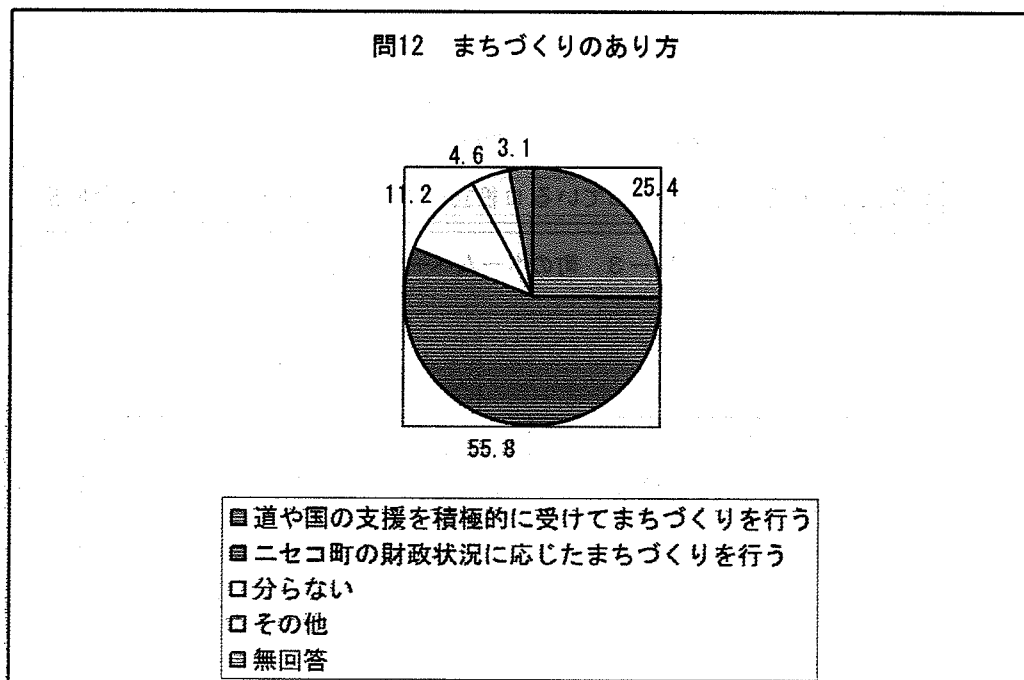
問11 住民の意見を集める取組みで、参加・利用したことがあるもの(複数回答)



かっこ内は回答者数に対する割合で%

- ・【問 12 まちづくりのあり方】まちづくりのあり方は「ニセコ町の財政状況に応じたまちづくりを行う」が 55.8%で過半数を占め、「道や国の支援を積極的に受けてまちづくりを行う」は 25.4%であった。「わからない」が 11.2%、「その他」は 4.6%。

その他で挙げられた意見には「住民重視・町民主体のまちづくり」、「道や国の支援方針を確かめつつ、ニセコ独自のまちづくり」、「自助努力が大切、住民参加で」、「農業の強化、農業の後継者育成」（複数回答）といったものがある。



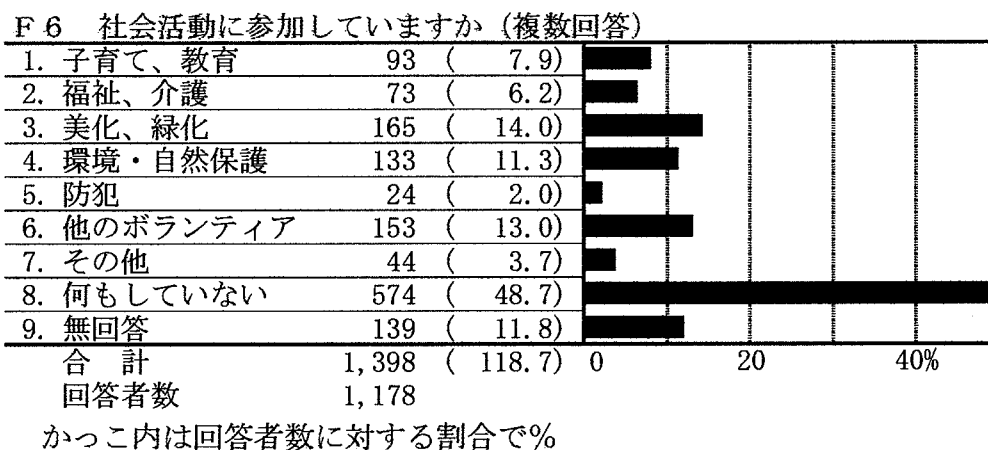
- ・【問 13 まちづくり活動への参加意向】町が元気になるための活動に「機会があれば参加したい」が 54.1%で半数以上、「積極的に参加したい」も 8.2%みられ、参加意向は6割を超える。

世論調査の結果と比較するために無回答を除いた割合を計算すると以下となる。

() 内は世論調査の数字。

1. 積極的に参加したい 8.6% (7.5%)
2. 機会があれば参加したい 56.5% (56.4%)
3. あまり参加したくない 6.7% (12.8%)
4. 参加したくない 5.1% (8.5%)
5. どちらともいえない 14.8% (11.5%)
6. わからない 8.3% (3.2%)

- ・【F 6 社会活動の参加状況】具体的な社会活動の参加状況を見ると4割が参加しており、「美化・緑化」14.0%、「他のボランティア」13.0%、「環境・自然保護」11.3%が多い(複数回答)。



【回答者属性】

- 1) 性別=男女比は半々。
- 2) 年代分布=50代、60代を中心に80歳以上も6.8%ある。15歳から96歳までで平均53.7歳。
- 3) 家族人数=2人家族が34.4%。最大は12人家族で平均は3.1人。
- 4) 居住年数=30年以上が半数を占め、平均も33.2年となる。

以上